

北杜市鳥獣害対策説明会資料

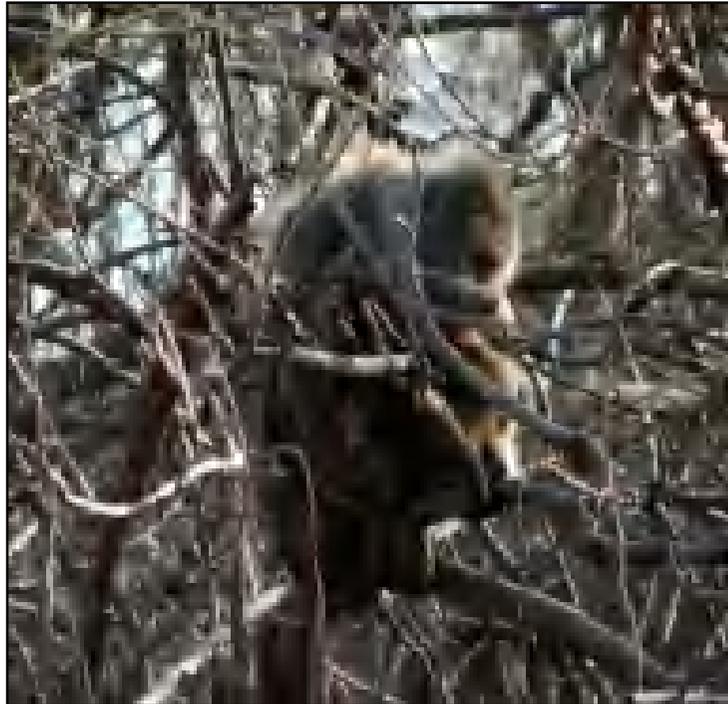
(ニホンザル編)

産業観光部 林政課

次 第

- ・ ニホンザルの生態
- ・ サルの食べ物
- ・ 上神取地区のサル群(江草群)について
- ・ サル被害対策
 - 集落全体でサル対策の共通意識をもつ
 - 柵の設置、管理。継続的な追払いの実施
 - 最終手段としての有害捕獲
- ・ 地域ぐるみの取組みが大切
- ・ 有害鳥獣捕獲許可について
- ・ 最後に。

ニホンザルの生態



グルーミング(毛繕い)中のサル

- サルの寿命は20年～30年位。
- 群れで行動、50～70頭程度の母系社会、行動範囲をもちその中を餌を求めて周期的に巡っている。
- いわゆる「ボスザル」はいない。
- 日中朝早くから活動し夜間は活動しない。

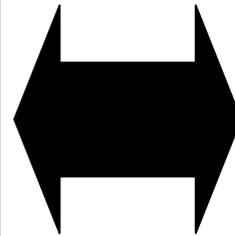
ニホンザルの繁殖

山のサル

初産年齢：7～8歳程度
出産間隔：2～3年
赤ん坊の死亡率：30～50%程度

餌付けサルと農作物を食害するサル

初産年齢：4～5歳
出産間隔：毎年出産
赤ん坊の死亡率：20%以下



本来の生息地広葉樹林

交尾期は9月～12月、出産期は3月～6月。1回の出産で1頭出産。

農作物等を食べるようになると栄養状況が好転し、若いメスでも出産。また、死亡率も低下傾向に。

サルは何を食べるの??



- 植物性のものを中心に食べる。果実や野菜等を好む一方肉や魚は食べない。
- 畑の農作物で育ったサルが多数占める群れになると山で餌を探す事がなくなる。

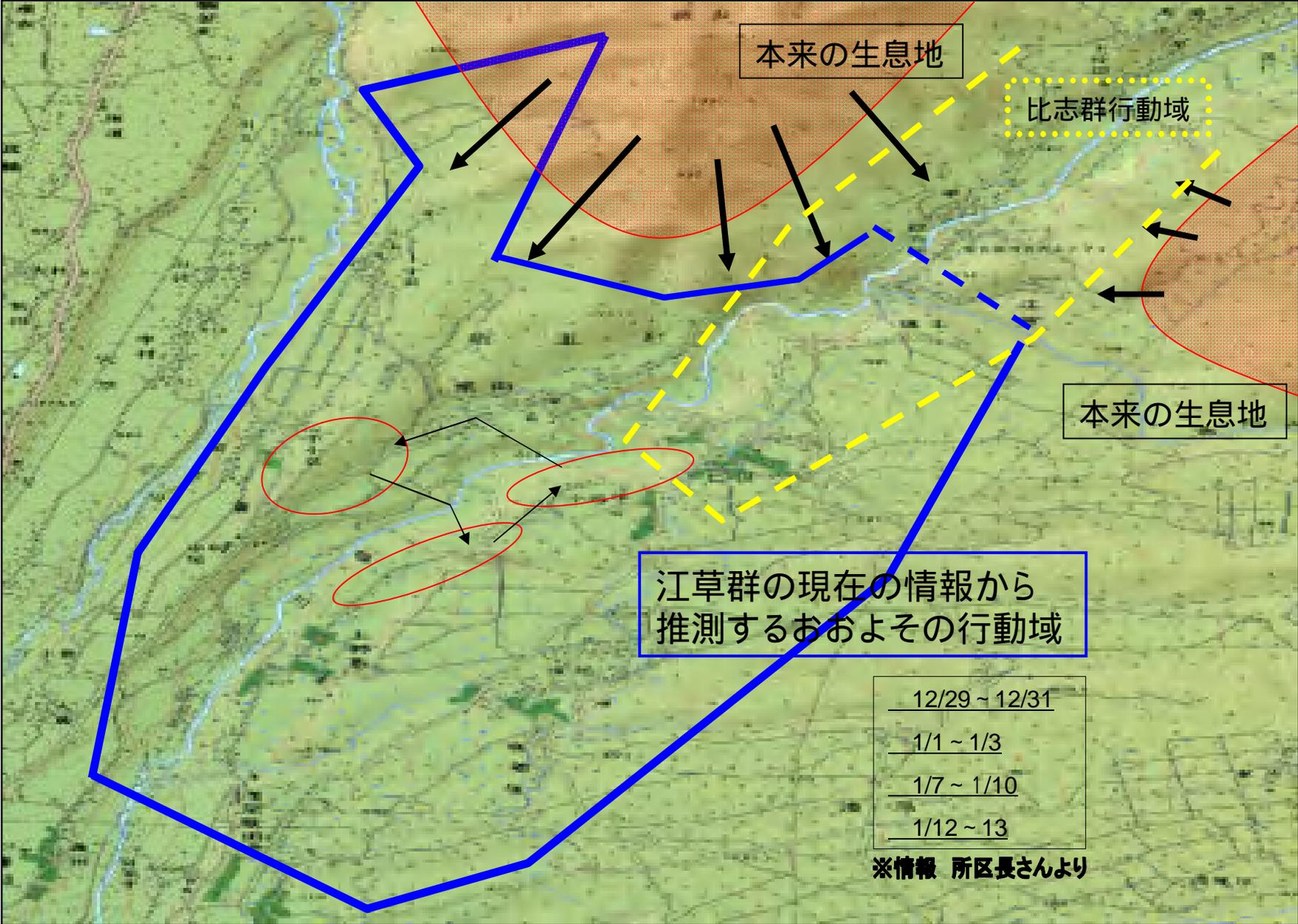
カボチャの被害

トウモロコシの被害

大根を荒らすサル群



上神取地区(江草群)の行動範囲

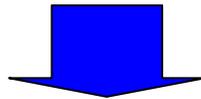


サル被害対策の順序

集落全体でサル対策の共通意識をもつ



- ・サルの生態、行動など勉強
- ・サル対策取組みについて
- ・サルを餌づけしている場所、隠れ場所の把握



一丸となった集落の環境改善実施

- ・不必要農作物早期収穫、放棄農作物の処分
 - ・餌の源となる野菜、穂等の放置期間の短縮
 - ・耕作放棄地の解消
 - ・里山の整備
- 等

未収穫農作物の放置



餌づけ



集落のサルの餌場



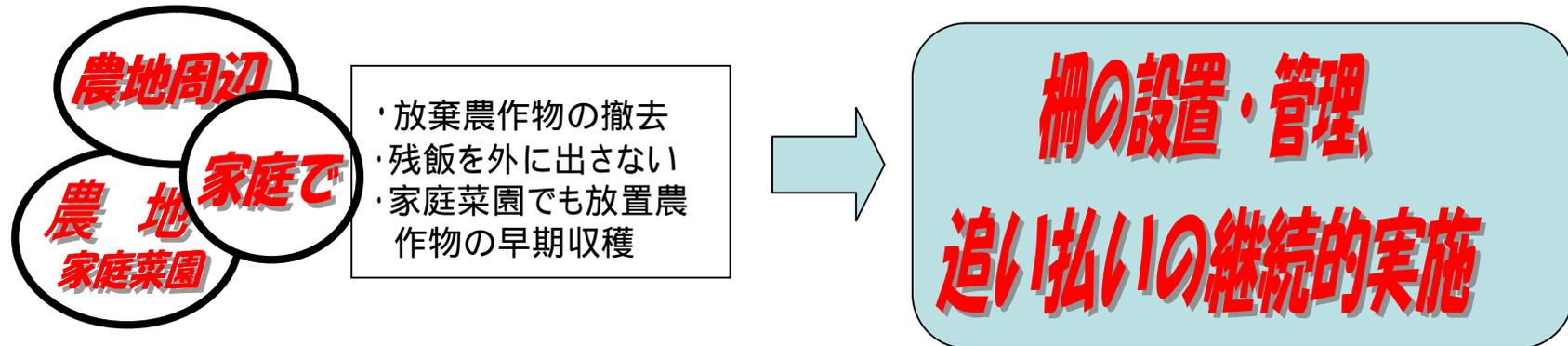
いらなくなった作物の放棄場所

未収穫の柿

サルにとっては良い餌場・・・

餌場の価値を下げ、柵の設置、管理。追払い実施

- 農地、住宅街に侵入するサルはそこをエサ場と認識している！
- エサを得るために、生命の危険など一定以上のリスクがあればサルは来なくなる。
- エサ場として都合の悪い環境にすることが隔離となる。
(エサが少量しかない、追われたときに逃げにくい、いつも人間に脅される等)



集落で有効な柵の設置と管理

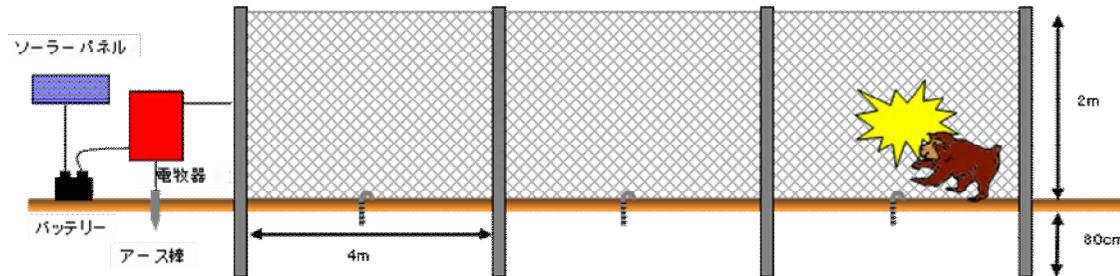


あきらめない追払いの実施

防除柵について

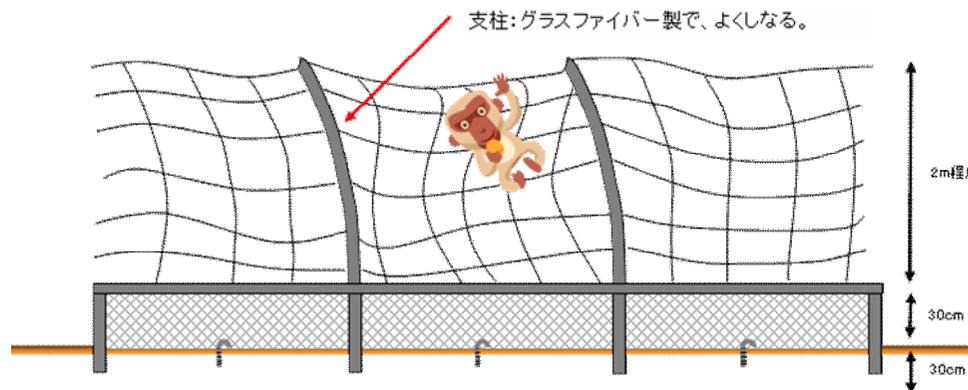
簡易柵から電気柵まで種類はいろいろ。

○ 電気柵



1m=3000円~5000円
資材、バッテリー等含む

○防除ネット柵(猿楽君)



1m=約700円~資材のみ

※集落全体で相談し設置場所、管理等の検討が必要になります。(柵については県、市補助事業があります。詳しくは市農政課まで)

最終手段としての有害捕獲 駆除しても被害が減らないのは何故？

- シカなど他の加害獣と異なり、サルはなわばりをもった群れ単位で加害する。
- 加害群の一部を駆除しても被害は体感上ほとんど変わらない。これは加害個体数にあまり変化がないため。
- 仮に群れの大半を駆除したとしても、群れが分かれる可能性がある。この場合、被害地域は広域化する。
- 群れ単位での捕獲は技術的に容易ではない(不可能ではない)。

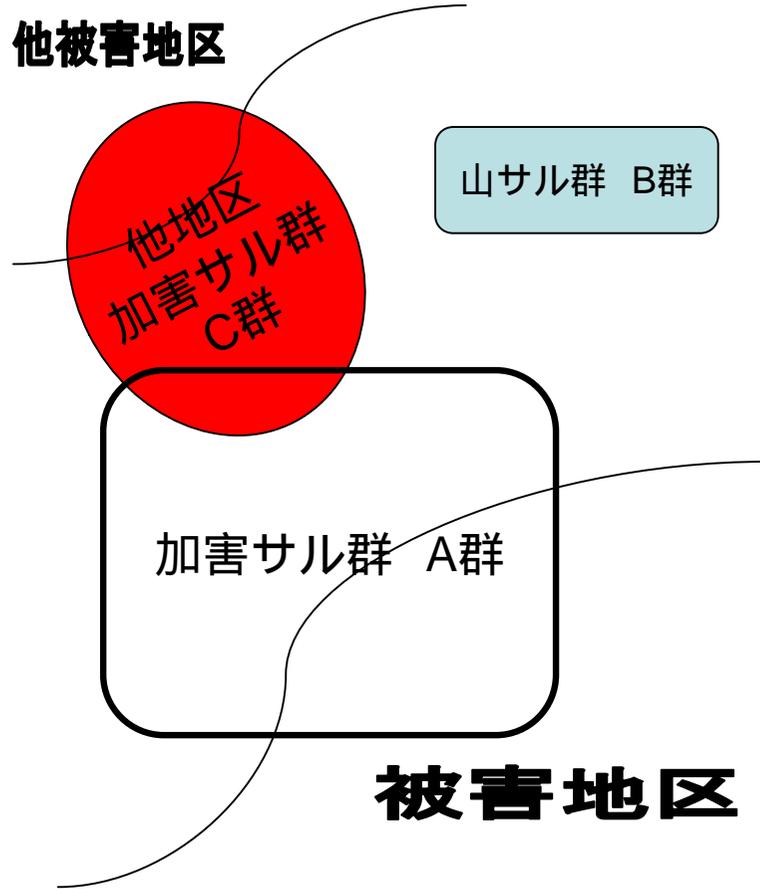
行動範囲考えず加害サルA群を集中的に捕獲すると...

有害捕獲前

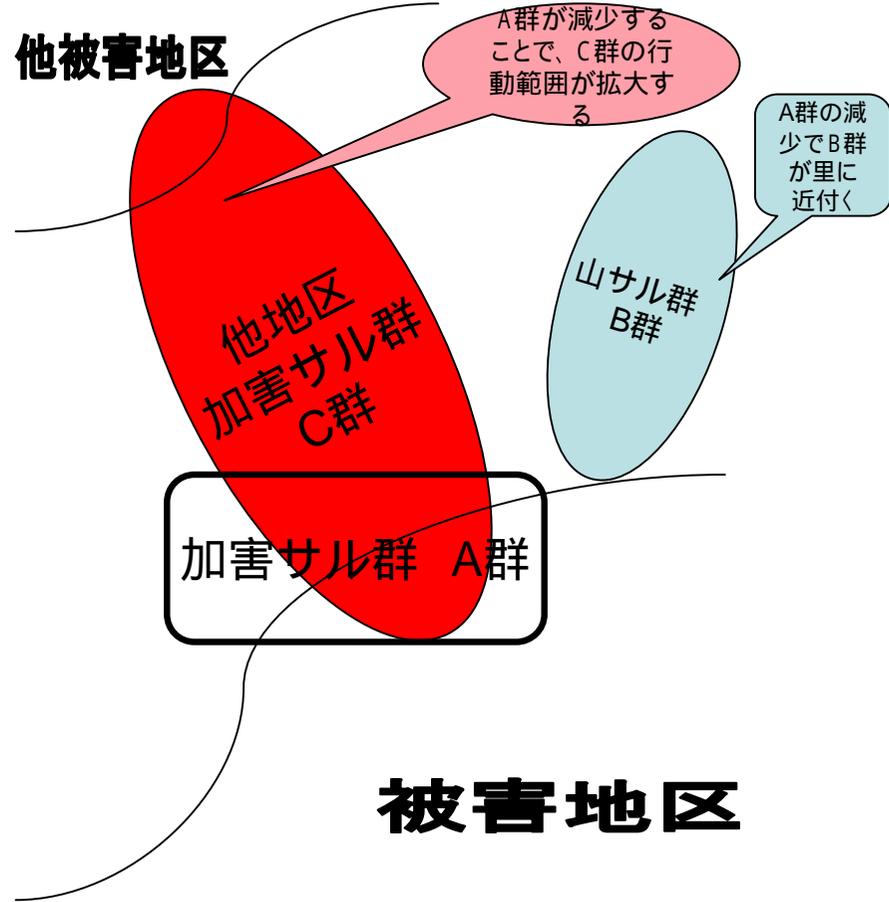


有害捕獲後

他被害地区



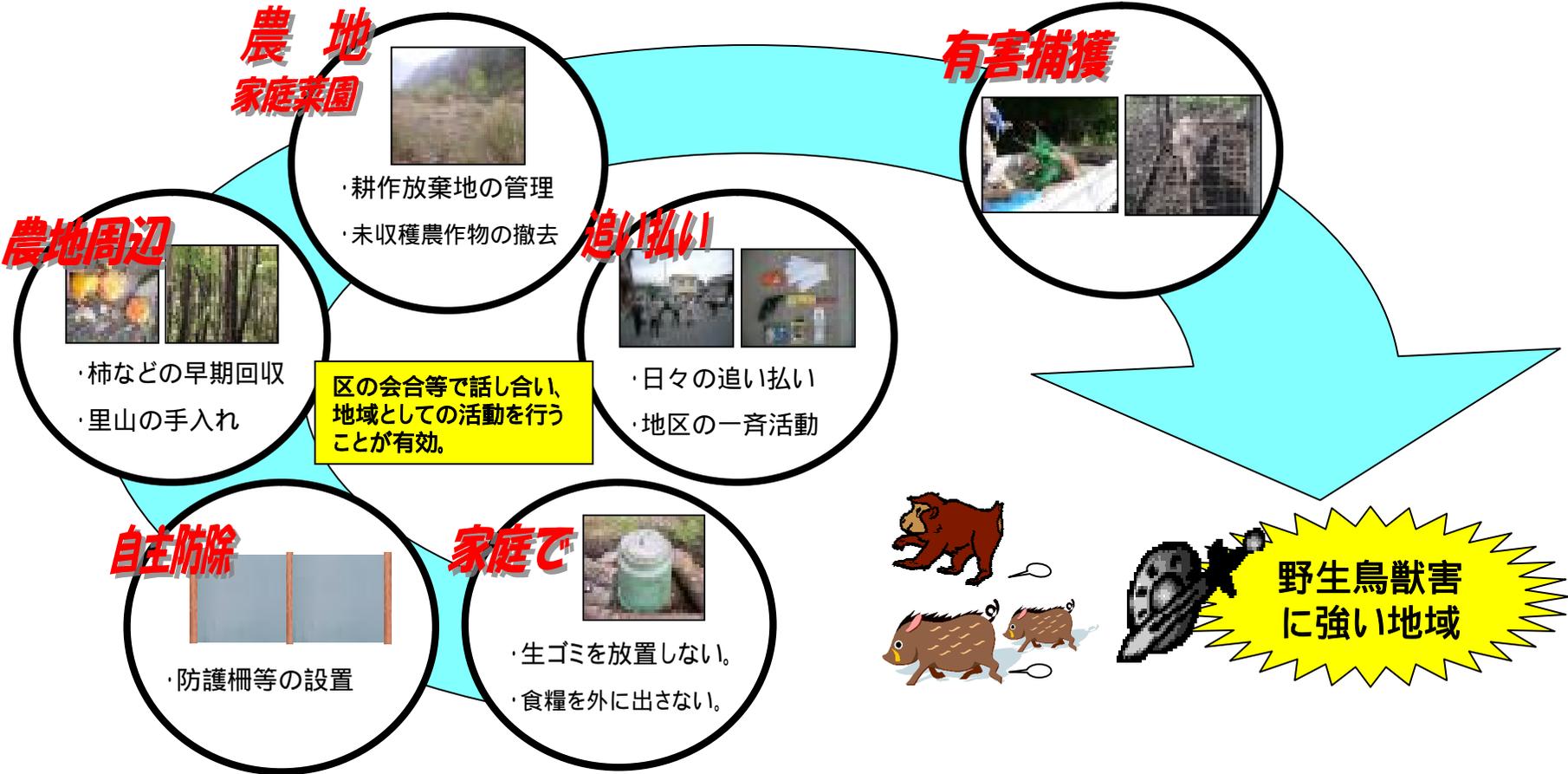
他被害地区



地域ぐるみの取組みが大切

「地域の取組み」と「有害捕獲」は、「車の両輪」

「動物を寄せつけない集落」を創り出すことが最も重要。



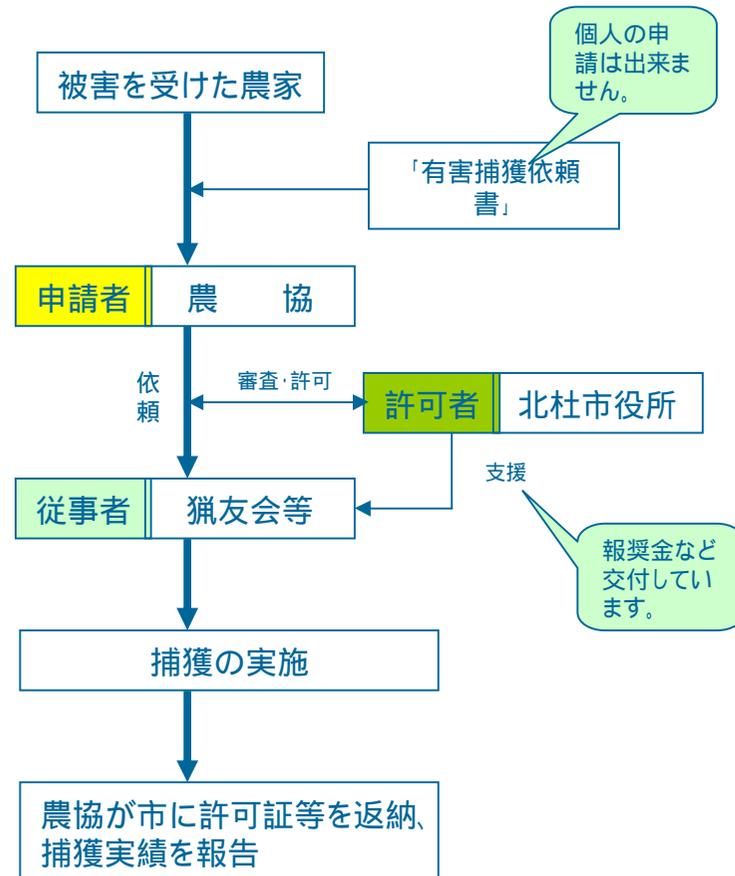
有害鳥獣の捕獲許可について

捕獲行為は、決められた猟区・猟期以外には**原則不可**。(鳥獣保護法による)

自主防除を行っても、農作物被害が発生する場合、**例外的に捕獲が許可**される。

有害捕獲許可の概要	
捕獲の条件	被害対策を実施しても、被害が防止できないこと。
申請者	農協、森林組合（個人は「捕獲依頼書」を提出して申請者に依頼）
従事者	申請者が、狩猟免許を有する者を「従事者」に選任。
捕獲期間	約1ヶ月
捕獲区域	被害発生状況に応じ、被害地及び隣接地を対象とする。

< 有害捕獲までの流れ >



シカ等については、県の許可

最後に・・・

- 根気よく時間と労力をかけることによって初めて効果が得られる。
- どのような技術があっても、見かけたサルを追い払う意欲を失った集落には、サル害対策の効果は少ない。
「あきらめない」ことが重要。
- 立派な柵を作ってもサルは必ず侵入してしまう可能性がある。これを追い払うか払わないかが効果を左右する大きな要因になる。